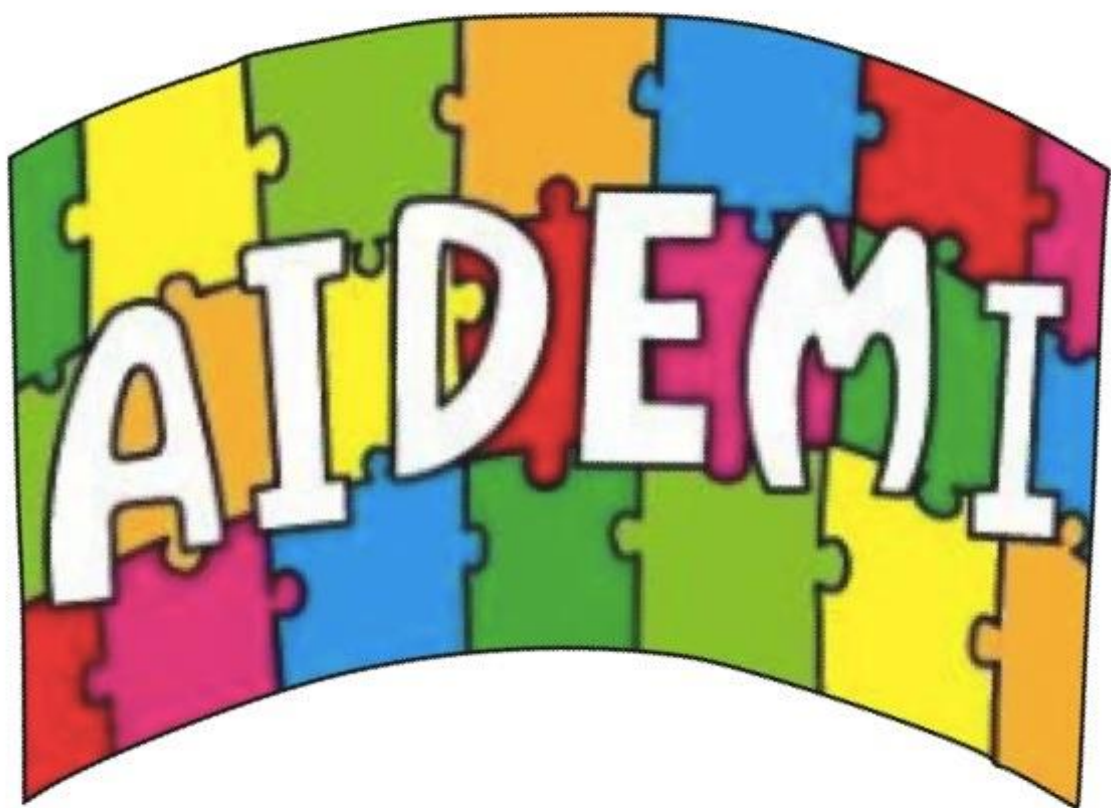




福島の高校生が、
日本を元気にする。

2014年11月29日
REASE公開講座

“あいでみ”について

<概要>

福島の高中生らが自ら企画・実施・事業評価を行う、福島県内高校生と上海市内高校生の友好交流事業。福島と中国を高校生の草の根友好交流で繋ぐことで日中関係の改善に寄与すると共に、企画・実施・事業評価の一連のプロセスを通してプロジェクト管理を学ぶキャリア教育としての効果を狙う。

<地域> 日本国：福島県 中華人民共和国：上海市

<経緯>

2011年に発生した東北地方太平洋沖地震により、福島県は広範囲で甚大な被害を受けた。県立福島高校では2012年度、落ち込んだ福島を支えていく世代である生徒の積極性、自主性、主体性、行動力、課題発見・解決力を育てる取り組みとして「復興のための企画プランコンテスト（通称：福島復興プロジェクト）」を行った。

同校の女子生徒3人（当時1年生）は福島県の風評被害払拭を目指して観光事業を企画。対象を来日観光客が多く日本に近い中国に設定し、中国では馴染みの少ない雪に触れる観光事業計画を作成した。

2013年3月、一般社団法人Bridge for Fukushima及び株式会社JTBコーポレートセールス主催、株式会社チェリオコーポレーション協賛のもと観光事業「福島にあいでみ」を実施。両国の高校生は交流する中で友情が芽生え、その反面で国家間に存在する歪みや国民同士の友好的ではない雰囲気意識するようになる。参加者らに「高校生同士の交流を日中関係改善のきっかけにしたい」との思いが生じ、福島県観光事業であった「福島にあいでみ」が、日中両国の高校生による友好交流事業「あいでみ」となった。

<目的>

- ・日中高校生間の草の根交流の機会をつくること
- ・高校生のキャリア教育に資すること

毎回日中両国に共通する社会課題を交流テーマとして設定し、互いの現状差異を学習しての議論を通して日中高校生の意見交換を行い、相互理解を目指す。

<理念>

- ・社会に目を向け始め、これからの社会を担っていく存在である高校生を主体とする。
- ・参加者が一緒に楽しめる活動、共通な社会課題を学び考える活動、学校訪問、文化交流等を中心とする。



<沿革>

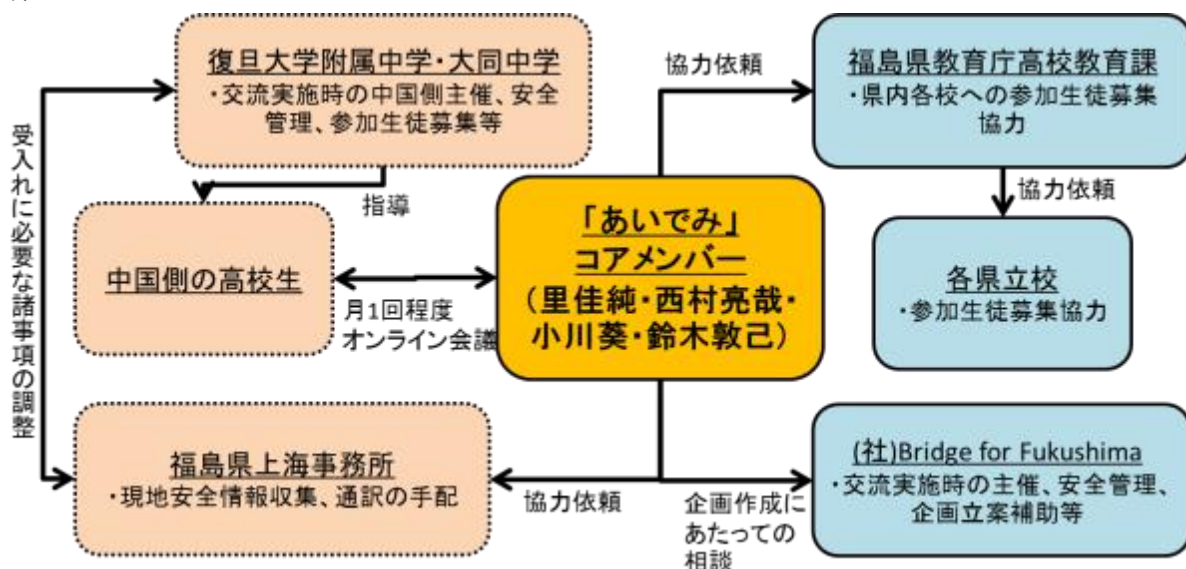
2013年

- 3月 23-26日 来県交流（福島高校：3人、復旦大学附属中学・大同中学：8人）
- 4月 福島高校女子生徒3人（1期生） 福島・中国高校生友好交流事業「あいでみ」発足
- 5月 福島県上海事務所 協力同意書発行
- 6月 独立行政法人国際交流基金 地域リーダー若者交流支援助成プログラム採択決定
- 7-9月 1期生 訪中交流企画作成
- 10月 福島県教育庁高校教育課 県内各高校へ当事業参加生徒（2期生）募集
- 11月 2期生決定 訪中交流準備
- 12月 14-17日 訪中交流（福島県内6校：13人、復旦大学付属中学・大同中学15人）

2014年

- 1月 1, 2期生 活動報告会
- 3月 2日 来県交流（福島県内3校：7人、大同中学：4人）
22-24日 来県交流（福島県内3校：7人、復旦付属中学：4人）
- 4月 1期生引退 2期生4人による新体制発足
- 5-7月 2期生 訪中交流企画作成
- 8月 福島県教育庁高校教育課 県内各高校へ当事業参加生徒（3期生）募集
- 9月 3期生決定 訪中交流準備
- 12月 21-24日 訪中交流（福島県内外7校：14人、復旦大学付属中学・大同中学：十数人）

<組織>



<財源>

国際交流基金助成金、寄付金（クラウドファンディングサイトReady For?）、参加者負担等

<効果>

参加者らは直接両国を見聞きすることで親近感が増し、先入観を破って良い印象を抱くようになった。報告会や新聞、Facebook等を通して参加者以外にも中国の姿を伝え、日中関係改善の一助となった。

また、参加者にとっては自分を変えるきっかけとなり、日本帰国後すぐに1年間の米国留学を決めた、積極性が出て人前で自分の意見を言えるようになった、夢を見つけた、新たな活動を始めた等、各自が様々に変化し続けている。これからの社会を担うリーダー的人材になる可能性と原動力を持つ高校生が世界を知り、自分を見つめるきっかけとなっている。



交流実績

<2013年3月23-26日 in福島>

23日

移動

最初は緊張…でもすぐに打ち解け、バス車内では一緒に歌を歌いました！

24日

スキー

父兄にもご協力頂きました。

文化交流

福島市の土湯温泉にて。
中国の学生です！

ワークショップ

福島の現状は？
何が出来ると？何を知らない？

25日

被災地ツアー

避難区域に指定され、ひっそりと静まり返った無人の小高駅。

ワークショップ

福島の課題を解決するには…？



食文化交流

26日

移動

天ぷらを揚げ、手巻寿司を作り…
日本食を紹介！



最後はみんなで浴衣でパシャリ！！

あいでみ創設メンバー

小林恵菜

笠井彩子

初めは福島県の観光授業として始めた企画でしたが
中国の高校生1人1人と関わっていくうちに「友好を
目的にしたい！」と思うようになりました。何を言っ
てもやっぱり

“人と人” なんだと思います。

<2013年12月14-17日 in上海>



14日

移動

歓迎会



15日

PM2.5実験室見学



大学の研究員さん

ディスカッション



大気汚染対策



講義



キラキラ！

市内観光

社会起業って？



16日

学校見学





大同中学校訪問



ディスカッション



家庭訪問



日中共通の社会
問題について

上海蟹!?

お別れ会



謝謝你！
楽しかった！

17日

移動



また会おう！再見！



三人で始めたこのプロ
ジェクト。たくさんの
仲間と共に最高の形で
成功出来ました！

<2014年3月2日 in福島>



2日

土湯訪問



雪の土湯



栽培ハウス見学



温泉です

土湯見学

ミラクルフルーツ体験

温泉熱を利用して栽培される
ミラクルフルーツ！



「これからの日中関係」を
イメージして絵を描きます。

ワークショップ



当日の様子は
3月11日の東京新聞で
取り上げていただきました！



<2014年3月22-24日 in福島>



22日

歓迎会



ひたすらたこ焼きを
焼きまくった日中の高校生



自分の「思い」を
赤べこに託して…

会津観光



家庭訪問



家族みんなでパシャリ
兄弟が新鮮だったようです

24日

相双視察



無人の小高駅前
時間が経っても何も変わらない
福島の実現



ワークショップ

福島の「今」を伝えるには？

お別れ会

メディア情報

<Facebook> <https://ja-jp.facebook.com/fukushimaniaidemi>



メンバー紹介、進捗状況等
最も頻繁に更新中です！
いいね！お待ちしています。



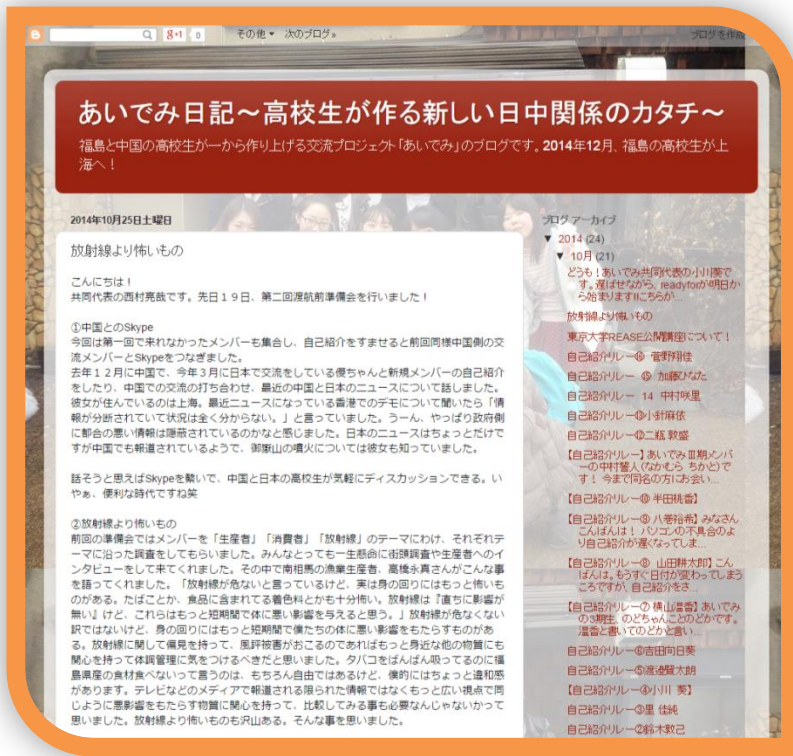
あいでみ Facebookページ

<ブログ> <http://fukushimaniaidemi.blogspot.jp/>

Facebookの情報は流れて
しまうもの。過去の記事にも
簡単にアクセスできます！



あいでみ日記
～高校生が作る新しい
日中関係のカタチ～



<READY FOR?>

<https://readyfor.jp/projects/aidemi2014>

READYFOR? は日本のクラウドファンディングサービスです。

READYFOR? 健康・福祉特集

2年目突入！ 福島・中国高校生友好交流『あいでみ』

ホーム | 新着情報 5 | 応援コメント一覧 5

気になるリストに追加

小川（チーム『あいでみ』共同代表（広報担当））

こんにちは！『あいでみ』共同代表、広報担当、高校2年の小川です。アーチェリー部に所属しています。異文化交流が好きで夢は国連で働くことです。

現在の達成金額 **50,000** 円

目標金額 **600,000** 円

スポンサー募集終了まで **22** 日

支援した人数 **5** 人

[このプロジェクトの支援に参加する](#)

このプロジェクトは12月10日（水）午後11:00の時点で、600,000円以上集まった場合のみ、決済が完了されます。

¥3,000 の支援で受取る引換券
在庫制無し
・私達の書いたサンクスレターをお送りいたします。
0個 購入済み

¥10,000 の支援で受取る引換券
在庫制無し
・私達の書いたサンクスレターをお送りいたします。
・中国の高校キと一瞬に導いた中国のお土産を、中国

このプロジェクトについて
「高校生同士の交流を日中関係改善のきっかけにしたい」

はじめまして。福島県立福島高校2年の小川葵です。2012年、悪化する日中関係に危機感を抱いた私たち福島の高中生チーム『あいでみ』の思いから始まった、福島と中国の高校生同士の交流から、日中関係を改善するための企画です。私はこのプロジェクトに去年参加しました。去年の様子はこちらです。
今回で二回目となる「あいでみ」上海訪問では福島と上海の間の交流を

12月21-24日の
訪中交流実現のため
ご支援をお願いします。
今年は目標60万円、
締切12月10日です！



2年目突入！
福島・中国高校生
友好交流『あいでみ』

<高校生社会活動コンテスト>

<http://youtu.be/B-KXUnxCfjU>

9月28日に行われた
「ふくしま高校生社会
活動コンテスト」での
プレゼンです。



「あいでみ」
-東大志望の生徒会長と
帰宅部のバンドマンが
プレゼンするようになる-西村亮哉×鈴木敦己

東大志望の生徒会長

と

帰宅部のバンドマン

が

一緒にプレゼンするようになる



メ モ

発表レジュメ

2014.11.29 REASE公開講座

<導入>

自己紹介：日中高校生友好交流事業「あいでみ」共同代表（2期生）

鈴木敦己（すすき あつき）、西村亮哉（にしむら りょうや）

※どちらも福島県立安積高等学校2学年

課題意識：日中の国家間、政治レベルでは確かに仲が悪い←でも→国民が互いを嫌う理由は？

「何となく」の雰囲気で「どちらかといえば嫌い」な状態になっている

→ちゃんとした理由も無く、互いに嫌い合いたくない

活動目標：高校生同士が交流してお互いの文化を学び発信することで、先入観を生むイメージではなく実際の姿を伝え、根拠のない「嫌中」「嫌日」感を払拭する

<沿革>

・団体発足

2012年度 福島復興プロジェクト（福島県立福島高校）の一環として

→福島県の風評被害を払拭する観光事業「福島にあいでみ」（あいでみ＝おいで）発足

・来県交流

2013年3月23-26日 中国の高校生を福島に招き、観光PRをする

→楽しい3泊4日を共に過ごすことで友情が芽生える

→両国に漂う「何となく好きになれない」雰囲気に疑問を感じ、何とかしたいと感じる

⇒日中の高校生による友好交流事業「あいでみ」に発展

・ビデオメッセージ（あいでみ創設者・1期生 小林恵菜、笠井彩子）

動機：震災の影響を受けて福島県を訪れる観光客が減っている

→ウィンタースポーツに馴染みが無く、定期便もあった福島と関係の深い中国を対象

感想：先入観としてのイメージがあった、上手く交流できるか不安だった

→実際はとても楽しく、温かい心を持っていることを交流して初めて知った

→お互いをもっと理解したい、「次は上海で会おうね！」と言われる

⇒友好を目的とした「あいでみ」がスタートする

☆「日本」と「中国」というくくりではなく、1人1人が友達になれる交流をしたい

・訪中交流

2013年12月14-17日 福島県内6校13名で上海を訪れる

感想：世界を知らないことの恥ずかしさ、悔しさを感じた（鈴木）

下らない偏見が自分の世界を狭くしていた、国境を越えた友達が嬉しい（西村）

・来県交流

2014年3月3日 大同中学

22-24日 復旦附属中学の生徒とそれぞれ交流する

感想：被災地に対する中国の高校生たちの真剣さに驚いた（鈴木）

福島のことをもっと伝えたかった、英語も出来ず何も知らなかった自分（西村）

<思い>

鈴木敦己

かつて訪れたオーストラリア（工業先進国）と大きく異なる中国（発展途上国）に驚き

→何も知らずに生きてきた自分が恥ずかしい、悔しい

⇒世界を知りたい 2014年夏、1ヵ月間インドへ短期留学（ホームステイ）



あいでみの活動を通して出会えた素晴らしい人々

→普通の高校生活では出会えなかった素敵な大人、凄い友人・先輩・後輩

⇒身近なところから自分の世界が広がっていく、人生を考えるきっかけ

あいでみは学んできたことを生かし、自分たちで企画・実施・評価を行う「アウトプット」

→震災以降、福島や東北に集まる支援は「インプット」が中心

⇒様々な知識を統合・活用し、成功と失敗を体感することで「身に付ける」

☆3年間の高校生活という限られた時間の中で自分を大きく成長させてくれる、素晴らしい
きっかけを与えてくれた

⇒たくさんした後輩たちにも同じ思い・きっかけを体感して欲しい

西村亮哉

きっかけをくれた東日本大震災

⇒被災高校生向けの企画で「自分より辛い経験をしたのに自分より頑張っている高校生」に出会う。

そしてあいでみで中国に行こうという決断をする。

中国に行って知った自分の「世界」

⇒初めての海外。知らないことが多すぎた事を知って衝撃を受けた。

他の国の社会問題を考える事が、自分の住む場所の社会問題を考える事にも繋がると知った。

「無知の知」を頻繁に経験するために行動する習慣を身につけるきっかけになった。

アメリカ留学と東北の高校生

⇒東北には沢山の「何かしたい」と思っている高校生が沢山いる。

彼らが東北の未来そのものであると思う。その姿に是非注目して欲しい。

これからの福島の課題

⇒大学卒業後に福島に戻って仕事をしたい高校生は全体の3割しかいない。

地元で輝く大人など沢山の人間の人生に触れる事で人生の多様性を感じ、成功の再定義をするべきだ。

<今後>

・訪中交流

2014年12月21-24日 福島県内外7校14名で上海を訪れる ※県外1名は福島県出身

→テーマ「食の安全」：福島の放射線と中国の現状について学び、風評に流されることなく、自分で安全かどうか判断できるようになる

・ご支援のお願い

訪中に必要な資金を、クラウドファンディングサービス「Ready For?」を通じて集めています。

→後輩たちに素晴らしいきっかけを与えられるよう、夢を叶えるわくわくを感じてもらえるよう尽力いたしますので、ご支援よろしくお願い致します！



Contact me!

Facebook ▶ 「西村亮哉」

(www.facebook.com/ryoya.nishimura.7)

Twitter ▶ @theikasumi7



夢を叶えるわくわくを 僕たちと一緒に感じませんか?

2年目突入! 福島・中国高校生友好交流『あいでみ』

★気になるリストに追加

ホーム

最新情報 5

応援コメント一覧 5



小川 (チーム『あいでみ』共同代表 (広報担当))

こんにちは! 『あいでみ』共同代表、広報担当、高校2年の小川です。アーチェリー部に所属しています。異文化交流が好きで夢は国連で働くことです。

現在の達成金額	50,000 円
目標金額	600,000 円
スポンサー募集終了まで	23 日
支援した人数	5 人

¥3,000 から、僕たちの
サポーターとして**わくわく**を
共有する事が出来ます!

鈴木敦己

Ready For? はWeb
サイトから右の引換券
を「購入」することで
共感するプロジェクト
に支援者として参加で
きる日本初のクラウド
ファンディングサービ
スです!

西村亮哉

¥3,000

私たちの書いたサンクスレターを送りたいします。

¥10,000

・私達の書いたサンクスレターを送りたいします。
・中国の高校生と一緒に選んだ中国のお土産を、中国の高校生と一緒に撮った写真と一緒に送りたいします。
・当日の様子や写真を私たちがまとめた「活動報告書」を送りたいします。

¥30,000

・私達の書いたサンクスレターを送りたいします。
・中国の高校生と一緒に選んだ中国のお土産を、中国の高校生と一緒に撮った写真と一緒に送りたいします。
・当日の様子や写真を私たちがまとめた「活動報告書」を送りたいします。

¥100,000

・私達の書いたサンクスレターを送りたいします。
・中国の高校生と一緒に選んだ中国のお土産を、中国の高校生と一緒に撮った写真と一緒に送りたいします。
・当日の様子や写真を私たちがまとめた「活動報告書」を送りたいします。
・去年も中国の高校生と共に訪れた福島県相双地区を、『あいでみメンバー』と地元NPO団体Bridge for Fukushimaが一日かけてご案内します。(※旅費交通費・食費その他費用はご負担いただきます)



このプロジェクトの支援に参加する



こちちからもアクセスできます!

<https://readyfor.jp/projects/aidemi2014>